参謀部長

第一課

主事

浄写　発付

校合　月　日

廿五年九月　日　主務

立案者

第二局長

第二課長

決裁濟

大臣

次官

軍艦吉野缶罐焙管接合部ノ漏洩ヲ豫防スルカ為メ新式接合方法ヲ採用セラレ度而メ該方法ヲ施ストキハ強迫通風ノ壓力ヲ三吋ニ自然通風壓力ヲ一吋ニ増加スルヲ要スル旨監督官ヨリ別紙イ号ノ通リ電報有之ハ有口号ノ通リ通風壓力ノ増加ヲ許サス他ノ方法ヲ求

官房第一一三号

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

ムヘキ旨電令ノ如ハ号ノ通リ気壓ヲ増加セス他ノ方法ヲ発見セシ旨電報有ル以上ハ二号ノ通リ其方法採用許可ノ如別紙ホ号ヘ号ノ通リ右ハ号電信文中ニ誤リアルヲ発見シ全ク気壓ヲ増加セサル完全ノ方法ハ為シ孤元来気罐ノ通風壓力ハ可成減サスルノ精神ハ得共右電文誤謬ノ為メ今ニ至リ之リ取消シ難ク既ニ七月廿五日安社ヨリ焙管製造所ハ注文シ工事ニ著手シタル旨別紙ト号ノ通リ報告アリ四十余日ヲ経過シタル今日ニハ粗落成ニ至リアルモ雖計リ右ハ不得止我ガ其任許可ヲ求ムル為ニ敢テ自然通風試験ハ一時ノ壓力ヲ以テ施行スルコトニ相成リ得共之カ為メ大ナル差支ハ無シト相認メル依テ仮令ハ壁督安申出シ通リ許可致シ可然ト存ジ右偶謬ノ廉用

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

陳義ヽ仰裁可ス

別紙イ号ヨリハ号ニ至ル書面第二局第二課ヽ移納

海軍

0835

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

供覧

閲覧済

大臣

局長 紀道

第二課廻

昭和十五年十二月十二日

海軍大臣 米内光政

海軍大臣 海軍次官

海軍次官

海軍

0836

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

譯文

去朝ヨリ面談被致候貴國政府ノ巡洋艦工事ニ就テハ目下修理接續居候處
七月十六日附書面ヲ以テダーハム地方坑夫同盟
罷工ノ為メ材料供給延期ニ週間出来難キ
件ハ實ニ必要ヨリ起リシ儀ニ付御承諾被下度候
ト存候也

千八百九十二年十月六日

安社

アームストロング造船場ニテ

ピー、ウハット

松尾大技監殿

海軍

0837

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

Oct. 6, 1892.

T. Inatsuo Esq. I.J.N.
Elswick Shipyard

Sir,

Cruiser "596"

We reference to our interview this morning, we continue to make such good progress with the vessel we are constructing for your Government that we can now confidently say we shall not require the extension of three weeks claimed in our letter of the 18th July last on account of the strike of miners in Durham.

We have the honour to be,
Sir,
Your obedient Servants,
(Company's name)

P. Watt.

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

機密

閲覧済

次官

主事

局長

紀遊

第二課

注ア二百四十五号

官房ア一九四三号ノ二ノ以テ申ス通海路ノ起業ト命名セラレタル件本邦人ノ投資企業ナル

英

昭和十年十月十八日 海軍大臣 岡田啓介

逗事大臣子爵 男爵 伊集院彦吉殿

十一月廿四日受

0839

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

海軍

右所第一九四三号ノ二

英国アームストロング会社ニ於テ製造ノ軍艦

巡洋艦吉野ト命名セラレタル艦ヲ正式

ニ

明治三十五年一月三十日 [illegible]

[illegible]

原造船所ニ於テ竣工

原キ八三十五年度第六号十一丁ニ於テ

0840

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

閲覧濟

第二局長

第二課廻

第一課廻

第三課廻

大臣

次官

主事

供覧

受第一壱四號

0841

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

第

日本軍艦吉野ノ進水

昨年十二月二十日発刊ノ「タイムス」新聞ニ曰ク

ニューカッスルノ「アームストロング、ミッチェル、アンド、コムパニー」ニ於テ日本帝国海軍ノ注文ニ応ジテ製造中ナリシ強力ナル保護巡航艦吉野ハ昨二十日ヲ以テ日本官衙ノ「エスクヮヤック」ニ於テ航行ニ堪フルノ式ヲ挙ケタリ抑モ吉野艦ハ長サ

（本年一月三十日発「ジャパン、ガゼット」抄訳）

寺島成信（譯）

毎

0842

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

三百六十尺、幅四十六尺二分ノ一、平均喫水七尺、排水量四
千百五十噸ノ巡航艦ニシテ全身鋼ヲ以テ製造シ其ノ
保護甲板ハ傾斜部ハ厚サ四寸二分ノ一、又水平部ハ厚サ一寸
四分ノ三ノ堅鋼ヲ以テ成リテ汽機、汽罐、武庫、舵機等重
要ナル部分ヲ庇防シ又船体ハ数多ノ防水隔室三百
餘ニシテ保護甲板ト其ノ直上甲板トノ間ナル隔室ヲ
ハ之ヲ石炭庫ニ供用セリ本艦ノ載炭量ハ正シク

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

一千噸ニシテ所謂此航海力ヲ以テ能ク著大ナル航
程ニ堪フルニシテ又流罐ニ強壁通風ヲ施ス件ハ大
約一萬五千トニ云フ異常ノ馬力ヲ生スルヲ而シテ
此馬力ヲ以テセハ二十二節ヨリ少ナカラス高速力
ヲ得テ最モ快捷ノ巡航艦タル能ハサル者ヘキナリ次ニ本
艦ノ兵器ハ單ニ「エルスウヰック」商社ヨリ製出スル最新
良
且最優式ノ速射砲ヨリ成リテ六吋砲四門四十七

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

砲門ヲ装載シ其他補助兵器トシテ三斤連射
砲三門ヲ装載シ且又水雷発射管五個ヲ
備付ケ可シ司令塔ハ鋼鈑ヲ以テ固繞セラレテ厳然
前甲板ニ特立シ其内ニ作戦除艦ヲ指揮運動
スル為器具ヲ装置セリ進水式ヲ行ハレタルハ十月廿四日
夫人ニシテ倫敦駐在日本帝国総領事大鷲成徳
氏モ出席セラレタリ エルスヰック商社ノ船長ソーブル

汽

0845

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

氏ハ演述シテ曰ク日本人ハ学術ニ於テ卓然自ラ
新機軸ヲ出スヲルノミナラス而又歐洲先進国ヨリ
新奇有用ノ在事物ヲ採取摸倣スルニ吝ナラス
且夫レ技藝ノ巧ニ於テハ日本ハ国ノ委員諸氏ハ
殆ク歐洲ヨリ学フヘキ所多シ之ヲ由リ報告セン
程ナリ然ルニ此ノ右野ハ之カ製作ニ就テ工夫ヲ凝ラス
所ノ大ニ緊ルニ足ルヘキ良機ニシテ第一其ノ製式ハ統

毎

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

造船所ノ新機軸ヲ表スルニ加ヘキ未ニ三老練家ノ
脳震ヲ凝ラシテ漸次改良ヲ施シ以テ今日ノ地ヲ究
全無類ノ有ヲ見ルニ至リシナリ要スルニ吉野ノ如キ
ハ設計及兵器ニ於テ有ラユル新式ヲ結合シタル一模範
ト稱揚スヘキナリ

東汐 算

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

主事　浄寫　發付

校合　月日

廿六年八月十九日　主務

第二局長　第二課長　立案者

第一局長（松永）　第一課長

第三局長　第三課長

決裁濟

大臣　次官

軍艦青野原ヘ進水ヲ終リ工事追々捗リ行ニ付テハ回航委員先発員ヲ来ル廿四日ヲ以テ八月初旬ニ出発セシメラレ度別紙回航費豫算内訳書相添此段伺高裁ヲ乞フ

官房第二二八号

0848

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

汁

0849

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

軍艦吉野用途費豫算調

費目	金額	
先發費	一二、二一、九三一円五〇	別號甲号表之通
後發費	一二、一一七三五〇	別號乙号表之通
後發費	三九、四〇〇〇〇〇	後發負荷九十七人乘込横須賀港ニヨリカツイル 近海航海入費
航海手當	一三、二一三一一〇	別號丙号表之通
外國人接待費	二、〇〇〇〇〇〇	
水先案内及引船料	三、二〇〇〇〇〇	
運河費	七、五二一九三八	佛貨二一六六七法九八仙 為替ノ付三法四珍四時
石炭費	二六、九八二〇〇〇	佛貨三六四法五三仙
消耗品費	三、〇〇〇〇〇〇	佛貨四五六一法六八仙
四組中入渠料	二三、六九一三〇〇	別號丁号表之通

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

田舎中修理費	二、五二〇〇〇〇
労働者慰安費及諸備費	二六、〇六一、二五五
総計	一六一、〇三七〇〇〇
総計	一六一、〇三七〇〇〇

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

甲号

軍艦吾野回航員先發者旅費

	大佐	大尉	機関少監	大機関士	准士官	合計
人員	艦長 一	砲術長 水雷長 二	一	一	機関長 呼称 五	一〇
支度料 一人分	一二五〇〇	一〇〇〇〇	一二五〇〇	一〇〇〇〇	六五〇〇	円
支度料 小計	一二五〇〇	二〇〇〇〇	一二五〇〇	一〇〇〇〇	三二五〇〇	八七五〇〇
汽車賃 東京横須賀間 一人分	〇八五〇	〇八五〇	〇八五〇	〇八五〇	〇五〇〇	
汽車賃 東京横須賀間 小計	〇八五〇	一七〇〇	〇八五〇	〇八五〇	二五〇〇	六七五〇
汽船賃 横須賀マルセーユ間 一人分	五三九五〇〇	五三九五〇〇	五三九五〇〇	五三九五〇〇	五三九五〇〇	
汽船賃 横須賀マルセーユ間 小計	五三九五〇〇	一〇七九〇〇	五三九五〇〇	五三九五〇〇	二六九七五〇〇	五、三九五〇〇
汽車賃 マルセーユ・ロンドン間 一人分	四七一〇〇	四七一〇〇	四七一〇〇	四七一〇〇	四七一〇〇	
汽車賃 マルセーユ・ロンドン間 小計	四七一〇〇	九四二〇〇	四七一〇〇	四七一〇〇	二三五〇〇	四七一〇〇
日當 一日一人分	二三〇〇	二〇〇〇	二〇〇〇	二〇〇〇	一三〇〇	
日當 全員數一人分	四二〇九〇〇	三六六〇〇〇	四二〇九〇〇	三六六〇〇〇	二三七九〇〇	
日當 百八十三日分 (四月一日ヨリ九月九日迄ノ仮定) 小計	四二〇九〇〇	七三二〇〇〇	四二〇九〇〇	三六六〇〇〇	一、一八九五〇〇	三、一二九三〇〇

0852

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

	一日一人分	全日数人分	百四十四日分（九月十日より九月三十日迄後定）		実費概算（滞在六ヶ月ニ依定ス）		総計	
			小計	一人分	小計	一人分	金計	
宮室料	六〇〇〇	八六四〇〇〇	八六四〇〇〇	五〇〇〇〇〇	五〇〇〇〇〇	二、四九七三五〇	二、四九七三五〇	
	五五〇〇	七九二〇〇〇	一、五八四〇〇〇	四〇〇〇〇〇	八〇〇〇〇〇	二、二四五四五〇	四、四九〇九〇〇	
	六〇〇〇	八六四〇〇〇	八六四〇〇〇	五〇〇〇〇〇	五〇〇〇〇〇	二、四九七三五〇	二、四九七三五〇	
	五五〇〇	七九二〇〇〇	七九二〇〇〇	四〇〇〇〇〇	四〇〇〇〇〇	二、二四五四五〇	二、二四五四五〇	
	五〇〇〇	七二〇〇〇〇	三、六〇〇〇〇〇	二五〇〇〇〇	一、二五〇〇〇〇	一、八六〇〇〇〇	九、三〇〇〇〇〇	二、〇三一〇五〇

0853

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

乙号

軍艦吉野回航負傷者費

官名	少佐	佐官	大尉	少尉	大機関士	少機関士	大軍医	大主計	准士官	下士	卒	合計
人員	副長 一	分隊長 三	分隊長 四	分隊士 四	二	一	二	二	機関師 六	五一	一二五	一九七
支度料 一人分	一二五〇〇〇円	一〇〇〇〇〇円	一〇〇〇〇〇円	一〇〇〇〇〇円	一〇〇〇〇〇円	一〇〇〇〇〇円	二〇〇〇〇〇	二〇〇〇〇〇	六五〇〇〇円	三五〇〇〇円	二一〇〇〇円	
小計	一二五〇〇〇	三〇〇〇〇〇	四〇〇〇〇〇	二〇〇〇〇〇	一〇〇〇〇〇	一〇〇〇〇〇	二〇〇〇〇〇	三九〇〇〇〇	一七八五〇〇〇	二六二五〇〇〇	六三二五〇〇〇	
汽車賃 一人分	〇八五〇	〇八五〇	〇八五〇	〇八五〇	〇八五〇	〇八五〇	〇八五〇	〇八五〇	〇五〇〇	〇五〇〇	〇三六〇	
東京横浜間 小計	〇八五〇	二五五〇	三四〇〇	一七〇〇	一七〇〇	一七〇〇	一七〇〇	三〇〇〇	二五五〇〇	四五〇〇〇	八六五〇	
日当 一人分	二三〇〇	二〇〇〇	二〇〇〇	二〇〇〇	二〇〇〇	二〇〇〇	二〇〇〇	一三〇〇	〇	〇		
但准士官以上六十日分 小計	一三八〇〇〇	三六〇〇〇〇	四八〇〇〇〇	二四〇〇〇〇	一二〇〇〇〇	二四〇〇〇〇	二四〇〇〇〇	四六八〇〇〇	〇	〇	二二八六〇〇〇	
実費療費 一人分	二三〇〇〇〇	一八四〇〇〇	一三八〇〇〇	一八四〇〇〇	一三八〇〇〇	一三八〇〇〇	二三〇〇〇〇	九二〇〇〇	四六〇〇	〇四六〇		
帰京日数四十六日間見込 小計	二三〇〇〇〇	五五二〇〇〇	五五二〇〇〇	三六八〇〇〇	一三八〇〇〇	二七六〇〇〇	四六〇〇〇〇	五五二〇〇〇	二三四六〇〇	五七五〇〇	三四二〇〇〇	
総計 一人分	四九三八五〇	四〇四八五〇	三五八八五〇	四〇四八五〇	三五八八五〇	三五八八五〇	四五〇八五〇	二三五〇〇	四〇一〇〇〇	二一八二〇		
全計	四九三八五〇	一二一四五〇	一四三五四〇〇	八〇九七〇〇	三五八八五〇	七一七七〇〇	九〇一七〇〇	一四一三〇〇	二〇四五一〇〇	二七三七五〇〇	一二一一七三五〇	

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

0855

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

兩号

能海手當

東海ヲ渡海シ四十六日
能海中九十五日ト移定シ

合計 百四十一日分

官名	人員	一人一日分	一日分小計	百四十一日分合計
大佐	一	六六〇〇 円	六六〇〇 円	九三〇六〇〇 円
少佐	一	五四〇〇	五四〇〇	七六一四〇〇
機関少監	一	四五〇〇	四五〇〇	六三四五〇〇
大尉	五	二四〇〇	一二〇〇〇	一、六九二〇〇〇
大機関士	三	二四〇〇	七二〇〇	一〇一五二〇〇
大軍医	二	二四〇〇	四八〇〇	六七六八〇〇
大主計	二	二四〇〇	四八〇〇	六七六八〇〇
少尉	四	一八〇〇	七二〇〇	一〇一五二〇〇
少機関士	一	一八〇〇	一八〇〇	二五三八〇〇
准士官	一一	一〇〇〇	一一〇〇〇	一、五五一〇〇〇

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

下士一等	一七	〇三三〇	五六一〇	七九一〇一〇
下士二等	一九	〇二〇〇	三八〇〇	五三五八〇〇
下士三等	一五	〇一九〇	二八五〇	四〇一八五〇
卒一等	七三	〇一五〇	一〇九五〇	一、五四三九五〇
卒二等	五二	〇一〇〇	五二〇〇	七三三二〇〇
合計	二〇七人	一	九三七一〇円	一三、二一三一一〇円

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

三四ノ二

回航費豫算更訂計算書

費途細別　既定豫算　増　減

労働年号通信運搬其他雑費及豫備費総表ノ内	二六、〇六一円二五二	〇円
後発負担度料　乙号表ノ内	六、三三五〇〇〇	一、五三八〇〇〇
		一、五二八〇〇〇円

右之通

海軍

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

二四

秘書官

浄寫　主務

校合　月日聯帶

明治廿六年六月十四日　主務

大臣　次官

軍務局長　第三課長

経理局長　第一課長

軍艦吉野回航費及繰延中変更ニ伴
予算百分中軍艦吉野回航ニ要スル費金ヲ繰量
シ官房費百分二二八錢ヲ以テ法令ニ依リ得ル金額都
合五千五百繰延ノ為別紙調書ヲ通牒増減
更正仕度且ツ更ニ伺書載ス也

官房第六五六号

海軍省

0859

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

昭和廿六年六月

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

第二號

軍務局長

軍令部長

第一課

第二課

墨國ハムストロング社ニ注文ノ吉野號ハ愈十月頃竣功ノ由承知仕候ニ付、一應申上置度事有之ハ故何卒御一覽ノ程奉願候扨テ吉野號出来相成リ兼テ兵ハ必ズ三重度以上ノ試運轉有之ト存候若試運轉ハ何ノ方向ニ定メナレ候ヤ國ヨリ出發ノ與リ知ル所ニアラズ、然ルニ此ノ吉野號ノ試運轉ニ際シテ獨逸軍艦中殆ニキール軍港ノ邊ニ於テ旭日旗ノ翻ルヲ觀ルヲ得ハ日本國ニ取リテモ日本人ニ取リテモ後來ノ爲メ直接間接ニ其利スル所實ニ難ナラズト存候獨逸ハ歐洲ノ雄國ニシテ霸氏其人ニ交ニカラズト雖モ我日本國ノ現況ニ通ジタル者極メテ寥々タルハ此地ニ在ル者ノ常ニ遺憾トスル所ナリ、識見アル二三ノ人ヲ除キテハ日本國ハ未開ノ國ニシテ軍艦トテモ帆船位アルモノノ樣心得居者多クヒニ當地ノ海軍兵學校生徒等中

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

ニサイ坪ノ如キ想象ヲ爲ス者有之　博恭王第　啓王殿下方ニアラセラレ候テモ御交際中、意外ナル萬一無去ノ疑問ナト聞キ玉ハレ、常ニ此遣ノ事ニ就キ深ク御遺憾ニ被御思召候、又々英米佛伊ノ海遣ニ日本軍艦ヲ繫泊セシノ例少ナカラズト雖モ獨逸ニ於テハ未嘗ノ此事ナシ、今回吉野歸ノ試運轉ヲ利用シテ邪逸國人ニ我軍艦ヲ觀シ邪逸軍港ニ旭日旗ヲ輝スノ好機會ト存候而シテ客冬ノ頃邪逸新聞ハ吉野歸ノ事ヲ記載セシガ極メテ好評ノ軍艦ナリ實ニ吉野歸ノ試運轉ヲ獨逸海ニ行フハ邪ラ日本ノ國風ヲ輝シノ便ノミナラズ吉野艦棄込貿ニ益利ヲ與フルヿ甚タ多カラン、十月頃ハ邪逸近港ニ於テ海軍演習盛中ノ時期ナリ、乘艦員ノ之ヲ觀ルハ其益ナラン其利ナラン而シテ乘艦員

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

ノ利益ハ我国海軍ノ利益ナリト奉存候又ハ費用上ノ
黙ヨリ考フレバ此ノ艦ヲ大洋ニ行ルト港中ニ入ルトニ
於テハ其差異国ニ少々ナラズ然レ共英国ニカス
トル港ト獨逸軍港キール港トノ距離ヲ案スルニ凡ソ海程
七百哩ニ即チ二晝夜ヲ要スルノ里程ノミ試運轉ノ距離
トシテハ敢テ適當ヲ失セサルベシ今軍費用ノ一点
而已ニ注視スルニ至テハキールニ航海セシヨリハ大洋
行ノ方便ナルガ如シト雖モ是唯タ一時ノ事ニ過キズ而
シテ此試運轉ヲ利用シテ獨逸国ノ軍港内ニ我軍艦
ヲ入ルヽハ所謂現在ノ小利ヲ舍テヽ後来ノ大利ヲ為ス
モノト被存候且其ノ理由ノ如キハ前文ニ申上候ヲノミ
ナラズ其事ノ實際ニ渉リテハ筆紙上外ノ利益モ
更ニ多カルベシ若夫レ閣下ノ英断ヲ以テ此事相成リ

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

候ハヽ　両殿下方ニ被為在候ヲモ重極浦満悦ニ浦
思召サル事ト長本存上候而ニテ本官等日本臣民ノ
光栄ナリ、君ハ平生確信スル所ニテ微衷禁ニ難ノ
遂ニ威厳ヲ侵シ失礼ヲ顧ズ卑見ノ儘茲ニ開陳
致候、然ル尾浦採納被下候ト否ザルトハ一ニ閣下ノ制
裁ニアリ小官ノ知ル所ニアラズ恐懼謹慎
明治廿六年四月二十五日
海軍大尉今井兼昌
海軍大臣伯爵西郷従道殿

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

秘第八四六号

秘

第一課

主事

沖鳴

校合

発日

月

廿六年三月 日

主務

第二局長

第一局長

第三局長

第二課長

第一課長

第三課長

第一課

第三課

大臣

次官

軍艦吉野回航委員ヘ別紙通達ス

第二局長ヨリ訓示ス

0865

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

軍艦吉野回航委員心得

一回航委員長ハ製造會社ヨリ水艦ヲ領収スベシ

一回航委員先發者ハ監督官ト協議シ後發員到著スルトキハ直ニ乗艦シ且回航ニ差支ナキ様準備ヲナスベシ

一委員長ハ水艦回航ニ差支ナキニ至ル期日ヲ豫定シ後發員ノ差遣ヲ請求スベシ

一定備豫備品ニシテ製造會社ヨリ條約ニ依リ供給スルモノ及造船監督官ヨリ引渡ヲ受クルモノヽ外猶回航上必要ノモノアルトキハ委員長ハ監督官ニ於テ認可ヲ受ケ購買スベシ但出發ノ前携帯スベキ兵器(消耗兵器共)定備品消耗品及海面等ハ委員長ニ於テ取調申出ベシ

一回航ニ必要ナル消耗品ハ總テ委員長ニ於テ購買スベシ

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

一回航員衆艦シタルトキ及本艦ヲ領收シタルトキハ其旨直ニ電報スベシ又領收後速ニ出艦ノ期日ヲ豫定シ電報スベシ

一委員長ハ公務ノ為メ英國内ヲ旅行シ又ハ委員ヲ英國内ニ派遣スルコトヲ得

一回航中止ムヲ得サル必要アル外左ノ各港外ニ寄泊スルヲ許サズ但左ノ各港ト雖モ必要ナキトキハ寄泊スヘカラズ

プリマウス　ジブラルター　ポートセード　アデン

コロンボー　新嘉坡　香港

一本邦到著港ハ英軍港ト定ム而ノ到著ノ日ヲ以テ回航ヲ終リタルモノトス

海軍

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

閲覧済

供覧

次官

軍務局長

第一課

第二課

第三課

軍第一八五號

海軍

經理局長

第三課

0869

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

供覧

軍務局長

兵員左ノ通届

准士官　六名

下士　六十名

卒　百廿五名

右者新四艦乗組員附属トシテ厚意人

員表ノ通別ニ各々ニ候條此段御届仕候也

明治十五年七月十九日

某艦回艦乗組員代理 高〇〇〇

經理局長

軍務局長伊藤雋吉殿

軍第二一〇號

海軍

第一課

第二課

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

0871
0872

IMPERIAL JAPANESE TELEGRAPHS

Delivery Form

IMPERIAL GOVERNMENT TELEGRAPHS

Station: Aoicho Date: 28. 1894

Office No.:

Class: Pl

No.: nil

Words: 7

Time received: 4 30pm

Address: Ito Kaigunsho Tokio

Remarks:

Given in at: Colombo Date: 28. 1894 10M. 44M. a M.

Societas plosor socordia

Kawara

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

0871
0872

IMPERIAL JAPANESE TELEGRAPHS

IMPERIAL GOVERNMENT TELEGRAPHS

Delivery Form

Station: Aoicho Date: 28. 1894

Office No.: 4

Class: P

No.: nil

Words: 7

Time received: 4. 30 pm

Given in at: Colombo Date: 28. 1894 10H. 44M. a M.

Address: Ito Kaigunsho Tokio

Remarks:

Societas plosor socordia
Kawara

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

08773

IMPERIAL GOVERNMENT TELEGRAPHS

Delivery Form

Station Taicho Date 8-2 1894

Office No. 3

Class S

No. nil

Words 11

Time received 941 pm

Given in at Singapore Date 8-2 1894. 11. 25 M. pm

Address Ito Kaigunsho Tokio

Remarks

Socors perditor lentus
新喜坡ヘ着ス 船体及機関 活果

flacceo millesimus internatus
良好ナリ 安心 ノ報メ

caelum - Kawara
報告

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

陸第三百四十四号ノ一

軍艦高雄搭載ノ物見一個ノ数等

第二局長

第三部長殿

近来英国軍艦ニハ物見ヲ主砲高サ毒ニ設ケ之ニ如シ則チ当部既ニ有パーマー社ニ於テ製造中ノ二等甲級艦ニモ其一設ケアリ別ニ軍艦高雄ニ搭載用ノ各一個ノ三リメリートップ有之高雄其他巡洋高カウス遠距離ニアル敵艦等ヲ実視スルニ至ル実ノ感アリトス依テ高雄ニ於テ上甲板上甲板ノ吹ノ時ノ高サ二米(セミリメートル)ノ箇所(高サ四尺六寸)ノ物見一個ヲ新設シ二番砲ノ近ク設置スル事ヲ得ル此今番中ニ有ル旨此段申進ス

海軍大佐 [illegible]

海軍大臣殿

第三部長殿

出先文ノ義ハ更ニ異ニ変ナル意ナキ旨御了知ス

受第 六〇八号

四月五日受

0874
国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

秘書課

第一課

第二課

四月十三日受

軍務局長

軍務局長ニ備品ハパンフレット代リニパンフレットニ

軍務局ニハパンフレット類ノ備品ニテ本年度ノ進捗ハ

ニ於テハパンフレットノ全廃シテ代用ニパンフレットニ代用シ

右面倉ノ説ハ利益アルカラ比較スルニパンフレットニ代用シ

ナラス事業アルヲ以テ効果ハ殆ト変ナシ故ニ陸海軍ニ

優リシテ物ナリ信ジパンフレット代リニパンフレットニ

ニ過ギズ而シテ得ル所ノ成績ハ通リ更ニ費用ヲ要セズ進ム

番号ニ有ル分ハ指示ス

次官

閲覧

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

右者神戸ニ於テ英特務艦中アーゼンタイン號ノ遊艇ニシテ如斯ノ
バルカボートヨリ採用防備ガ参考トナリシ如シ

要第六七四號

図面ハ第二号第二課製図室ニ格納

明治十七年　大將福島殿

0876

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

軍務局長
決裁
閲覧
次官
供覧

第三課

軍第七五號

軍艦吉野艦首裝飾変換ノ儀伺

軍艦吉野艦首裝飾ノ儀ニ付テハ客年七月上申済ノ上ハ已ニ陸軍ヨリ最初ノ下タ画トハ全ク異リ龍形ノ如キハ勝利ヲ指シ居リ外見上甚タ思ハシカラサル点ヲ認メ其後正方形ニ改正方ノ儀ハ既ニ了承ノ儀ニ付テハ簡単ノ形ニ容易ニ制シ難ハスト雖モ依リ止ムヲ得ス名誉ノ為ニ造船部長ヲシテ式ト相違ノ上龍形ヲ廃シ別紙図面ノ通リ更ニ菊ノ紋章形ノ裝飾ヲ陸軍ヨリ着スルヲ資ス已ニ軍ニ着ケタル旨此段伺ヒ候也

明治十六年四月十八日

海軍大佐武富安一

福島海軍大臣殿

国際ハ参謀局ヘ渡ス

0877

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

軍務局長
陸甲百五十二号　第三課長

甲乙二十ヶ條作成ニ百四十五号ヲ以テ軍從吉野前衛ニ物見三個ヲ後ヶ崎ニ在リ兩仕置ヶ所共指出ス、
當番ヲ以テ後備ニモ前備同様ノ物見一個ヲ設ケラル
度ニ付相成兩仕ル

次官

昭和六年六月七日

福島第二師團長殿

0878
国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

次官

供覧

軍務局長

第二課長

機密四百五十三号ノ一

[illegible]石炭供給方法ニ付テ

[illegible]石炭供給方ハ充分ニ之ヲ[illegible]ノ上ヨリ依テ右英国軍艦[illegible]

ニリヤス及ハスパルタン号等詳細ニ調ヘタル該艦等モ已ニ[illegible]

両舷側保護甲板ニ就テ各炭庫毎ニ一個ノ供給孔ヲ穿チ以テ満足ス

法トハ為サリ当艦ニ於テモ該艦ノ図様ニ製造スルコトハ[illegible]明文有之候

事ナレ共右等故障ナキ迄[illegible]該様ニ勝ルベキ右ノ方法ヲ設ケタリ

右舷側保護甲板ニ於テ七十及七十三番間、九十三及九十五番間、百七及百九番

間ノ三ケ所ノ、左舷側モ同断

右ハ何レモ円孔ヲ穿チ螺旋蓋ヲ以テ密閉（ウヲーター・タイト）シ蓋ノ上面ハ防禦甲板ト平面ニナシ

其周囲ハ從ノ石炭ノ動揺ヲ防ク為ニ鋼鉄板ヲ以テ中甲板ト防禦甲板間ニ[illegible]

数ケ中甲板ヨリ出入シ得ヘキ装置ヲ為セリ蓋ノ厚サハ保護甲板ノ厚味ト同様ニシテ

[illegible]ノ防禦ニ充分整ヘリ工事ノ説明ハ別紙報告ヲ[illegible]

右及報告候也

第三四四號

明治廿六年[illegible]月七日

在英 [illegible]海軍大佐

0879

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

[redacted]

[redacted]

0880

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp